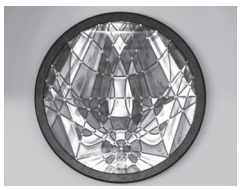
カトリック山形教会報
かすみ
2
2019.2.17



カトリック山形教会
〒990-0039　山形市香澄町2丁目11-15　TEL.023-622-3574　FAX.622-3590
ホームページ　http://www.catholic-yamagata.com/

2019年の始まりにあたって
― 山形教会の基本方針 ―

主任司祭　千原通明

新潟教区の100周年宣教宣言の中に3つの優先課題が掲げられています。

A.　世代、国籍、文化の違いを乗り越え、喜びと思いやりにあふれた「私たちの教会」を育てる。

B.　教区、地区、小教区において、お互いの情報を共有し交わりを深めることで、社会における教会の役割を自覚する。

C.　継続した信仰養成を充実させ、社会の現実のうちで言葉と行いを通じて福音を証しする信仰者へと脱皮する。

昨年承認されたわたしたちの小教区規約には、小教区の宣教司牧に関する基本方針を作成することが謳われています。そこで、教区の優先課題に従いながら、また、山形での現状を見ながら、以下のことを皆さんと共に考えていきたいと思います。

1.　企業研修などで増加する滞日外国人、すでに住んでいる多国籍の方を大切にすること
2.　病気や高齢などの理由で教会に来られない方々を大切にすること
3.　子どもの信仰養成はもちろんのこと、大人の信仰養成も大切にすること

この他にも、皆さんが気づいておられることもあるかと思います。小教区総会では信徒の皆さんが自由に意見を述べることができます。山形教会の共同体が、キリストの愛に根ざし、愛のうちに成長していくことができますように、共に祈ってまいりましょう。

受洗者メッセージ

キリスト誕生のクリスマスに洗礼を受けさせて戴き、心より感謝しています。

私は昨年（2017）12月からシスター竹中の「キリスト教入門講座」に参加させて戴きました。その日はたまたま私の81回目の誕生日でした。

何回目かの講義のなかで、赦しについてのお話があり、私はそれに強く引かれました。

私は生来自己中心的で、自分は今、何をなすべきかを考える事なく、ただ思いのままに自分のしたい事をして来ました。その多くは妻の望む事とは、かけ離れていました。その為、彼女に幾多の苦しみ、悲しみを与えてしまいました。又、子供の教育についても、私は殆どタッチしませんでしたが、彼女は一人で立派な社会人に育て上げてくれました。それなのに、私は感謝のきもちを持ちませんでした。そのような自分を顧みて，変われるものなら変わりたいと切実に思う様になり、洗礼を受ける決心をしました。そして彼女に話し、彼女のアドバイスで直ぐにシスターに電話で伝えました。それは5月13日の夕刻でした。

洗礼式は私にとって素晴しいものでした。それ迄に味わったことのない静かな喜びで私の心は満たされました。これからは、日々感謝の気持ちを持って妻と共に神の示された道を歩んで行きたいと思っています。

（2018.12.31　使徒トマス　角崎嘉男）

思いと嬉しさ

ぼくは、日曜学校で、神父様にいろいろなことを教えてもらうと、もっと先のことがしりたいという気持ちになりました。

おとうさんといっしょに、ホスチアをいただきたいと思いました。そしてせんれいをうけた夜のパーティでは、にぎやかで温かくて、これぞ本物のパーティなんだなぁ、神様の力により温かいパーティになったんだなぁ、神様にありがとう。

（東海林由崇）

クリスマスイブに息子と一緒に洗礼を受けることができてうれしく思います。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

（東海林由香）

キリスト御降誕ミサ

Merry Christmas、Maligayang Pasko：タガログ語（マリガーヤン　パスコ）、Buon Natale:イタリア語（ブオンナターレ）、Feriz Navidad:スペイン語（フェリースナヴィダータ）などの各国の言葉で降誕をお祝いする千原神父様の挨拶で、御ミサが静かに始まりました。

今年は、“ホワイトクリスマス”にはなりませんでしたが、多くの方がキリスト降誕ミサに与ることができました。

神父様のお話の中で、マリアこまくさ保育園のクリスマス会の聖劇でのエピソードとして、ある園児のひとこまが紹介されました。そのお子さんは、1年前にお母様がご病気で天に召され、「妹は僕が守る」とけなげに話し、聖劇の中で天使の役を希望しました。天使になれば、天国のお母さんのそばに行けると言ったそうです。そのお話しを聞いて、目頭を押さえたのは、私だけではなかったと思います。

ミサ後のパーティーでは、恒例の持寄りによる、たくさんの料理がならび、アトラクションでは、信者の有志によるウクレレ演奏で「もろびとこぞりて」「きよしこの夜」などを、みんなで合唱しました。

25日の日中ミサ後のパーティーでは、ベトナムとラトビアから来られた方の歌を聞くことができ、また最後には神父様のマジックショーが披露され、楽しいひとときを過ごすことができました。　（広報部　関根）

みんなでやろう馬屋作り

11月25日（日）ミサ終了後に恒例の馬屋作りが行なわれました。場所は、いつもはマリア様がおかれてある場所ですが、待降節はベツトヘムの馬屋に変わります。マリア様をはじめヨゼフ様、3人の博士等はある程度の重さがあり普段はあまり近づかない男性が必要となりますが、今年はいつもより多くの男性が典礼部長の元に6人が揃いました。毎年のことですが、馬屋作りには手順書というものがなく、各自のこれまでの記憶を頼りに作っています。幸いに昨年の写真を頂くことができ全体的なイメージが分かり、最初に馬小屋のバックとなる満天の星空とベトレヘムのゴツゴツした山と丘を毛布で作り始めました。ベトレヘムの山すその馬小屋です。これが大変です。山々とすそ近くの岩とを模した毛布を、いかにそれらしく貼り付けるかです。各人のイメージが違います。ああでない!この方がいい!話してるうちに留めたピンがはずれ又やり直しです。またイメージが変わります。中々決まりません。イメージの違いと毛布を留めるクリップのせいで思い通りに行きません。山の形もあっち引っ張りこっち引っ張りで中々うまくいかず蔵王の“馬の背”になったり熊の岳になったりと各自勝手なことをいいながら楽しんでいます。また、岩をかたち作るのに新聞紙を丸めて毛布の下に入れますが、手こずりながらも楽しんでいます。しかし各人自説を取り入れた合作のベトレヘムの夜景が出来ました。

しかし、さすがに、ただ楽しんでいるだけではありません。関根さんが作業の進行に合わせて各段階で写真を撮り解説を付け、誰が仕事しても作ることが出来るようクリスマス「プレゼーペ」を作るべく待機しています。山の形や岩の形は,その時の人たちの自由に、でも作る時間を短縮するには是非必要です。“さあ”あとは、マリア様、ヨゼフ様と博士、羊飼いなどの人形や樹木を配置すればできあがりです。バックや配置は毎年変わった方が楽しみな感じもあり、皆さんで考え、皆さんで飾り毎年自前の馬小屋でイエス様を迎えるのはうれしいかぎりと思います。それにこの手順書があればスムーズになると思います。来年は是非、別の方が作られてみてはいかがでしょうか?これから毎年の馬小屋作りが楽しく受け継がれるのではないでしょうか?待降節の始めに見つけた何となくほのぼのとした楽しいひとときでした。　（H･S）

待降節黙想会

カトリック鶴岡教会主任司祭
楊 成源 神父

待降節黙想会が12月15日（土）と16日に、鶴岡教会の楊 成源（ヤン チェンユアン）神父様により行なわれました。楊神父様は中国の方で、最初に自己紹介がありました。中国で2000年に神言会に入会し2002年に来日、司祭叙階は2010年で吉祥寺教会、南山教会の助任司祭を経て、今年、鶴岡教会の主任司祭として着任されました。

お聞きしますに、家族、親戚は皆さんカトリック信者というお話でした。

黙想会の前にスケジュール・予定時間をお話しましたが、講話については余り長い時間はいらない、短い時間で内容を充実したものにしたいと次のようなお話をして下さいました。

テーマ「信者の召命について」

日常生活の中で直面する三つのことがらについて、

1、教会からくる「迫害」について

イエス様が生まれてから今までずっと迫害の歴史がある。12人の弟子たちは全員が迫害で命をなくした。ローマ帝国時代は300年間の迫害があり、日本の迫害も250年間続いた。中国も1960年からある。また現在も、日常の中で「見えない迫害」「精神的迫害がある。子供のとき、学校でカトリック信者はいじめにあう。信者の身分を出さない。会社でも信者の身分を出さない。家族の中でも出せない,教会には隠れていく“心の不自由”がある。迫害はいつ終わるか?終わらない。しかしあれば逆にいい。自分の信仰が強められる。自由すぎると信仰が薄くなる。

2、「神を愛する」「隣人を愛する」とはなんでしょうか?

神を愛する…簡単

隣人を愛する…難しい（尊敬すること）

家族を愛すること…気持ちが違う。仏教の主人を尊敬することがカトリックを認めることになる。学校、会社でも良心をもって。真心をもって。悪口を言わない（愛のしるし）で小さいことから始めましょう。

3、「信仰はどうゆうふうに守るか?」子供にどのように伝えるか?

幼児のとき…良心が導いた。大人になってどのように導いているか?（洗礼を受けさせて信者になると行かなくてもいいでは?）の感じもある。日本の信者数44万人のうち教会に来るのは半分もいない。自分のための信仰は強いが子供たちはどうか?家族の祈りを大切に（家族に交流が出来る）

学校の導きは知識を教える。教会の導きは信仰（正しい神のことを教える）学校に行っているから大丈夫はダメ。信仰心が大事。

「中・高生になって忙しいから教会に来れない」ではなく,子供のときの導きは必ず戻る。いつか戻る（亡くなったとき）。この信者はずっと信仰を捨てていない。子供のときの教育が大切。自分の子供はどのように導くか?これが召命に直面する三つの問題と導きです。

これからの赦しの秘跡は、私たち自分の心を清める。受ける前に主の十戒をよむ。大きな罪はなくても、小さな罪はある。1年に1回は受けること。（H・S）

お知らせ

四旬節黙想会「キリストの十字架から伝わってくるメッセージ」

3月30日(土) 17:00～18:00　ゆるしの秘跡

3月31日(日) 9:30　ミサ
10:45～12:15　講話
講話後　ゆるしの秘跡
13:00　昼食会

■講師／森一弘司教
（東京教区・真生会館理事長）

1967年に司祭叙階、1985年に東京教区の補佐司教に叙階されました。2000年に補佐司教を引退してからは真生会館の理事長として執筆や黙想指導などに専念しておられます。

小教区評議会報告（承認事項）

任意の活動グループが承認されました

カトリック山形教会小教区規約第12条に「任意の目的で結成されたグループ・団体も小教区の宣教司牧の方針を共有し、その活動を補完するものとして、小教区評議会に諮った上で小教区内に公に設置される。…」とあります。

山形教会には、ご存じのように、末尾に表記の活動グループがあり、皆様のご理解を得てご協力を頂いておりますが、今年度より新規約に従った活動とすべく、小教区評議会に諮り決定し主任司祭の承認をいただきました。

活動自体はこれまでと変わりはありませんが、個人主催の活動グループから「山形教会の正規の活動グループ」になりました。変わった点は、以上のことから“募金等による各目的団体への援助金“は、山形教会の活動実績として一般会計及び当該会計に計上されます。

これまでに増して皆様のご協力ををお願いいたします。

あらためて任意の活動グループを紹介します。

＊グループ名　**「福島やさい畑、復興PJ支援募金」**
- 代表者　飯島千賀子
- 目　的　福島やさい畑、復興PJ運営費支援。

＊グループ名　**「グレース会」**
- 代表者　丹野 一子
- 目　的　手作り品販売」によるイエイズスマリアの聖心会への資金援助。

＊グループ名　**「みんなのコーヒー店」**
- 代表者　柴田 博
- 目　的　ミサ後の信者さん等の交流の場（コーヒーを飲みながら）の設置と販売収益金の司祭館建設資金の貯蓄。

＊グループ名　**「聖霊刷新祈りの集い」**
- 代表者　平尾 和彦
- 目　的　祈り（賛美と感謝）

2018年12月23日
小教区評議員会　決定
主　任　司　祭　承認
（小教区評議会 柴田）

加齢による祈りの変化考察

今年も待降節を迎えることになりました。
待降節第一日主日の聖書と典礼の集会祈願で、私たちは神様に次のように祈り願いました。

【救いの訪れを信じ、解放の時を待ち望む私たちの心をめざめさせて下さい。希望の光であるキリストを見つめて、歩み続けることができますように】と。この願いに私は改めて新鮮な気持ちと心おどる躍動を感じました。

カトリック信者になってから、もう何年もたっているのに、このような新鮮な感情と躍動感を受けたのはどうしてなの“米寿を迎えたこの歳まで同じ待降節に読まれる同じ文章、同じ言葉を何回も経てきているのだから、これまでの若い世代の時にあっても、新鮮な感情や躍動感があった筈ですが思い出せないのはなぜ”……

今は、普段の生活の祈りの中や、或いは、聖書を読んでいる中でこのようなことを経験することがままあります。若い世代の時に感じる気持ちと老齢期を迎えた今の感じ方に違いがあって当然のことなのかもしれません。

90歳近くの老境になると、体力・気力の衰えは否めず歩行困難・難聴・視力減退等があって、行動が目に見えて制約されるものです。その年齢に達して初めて経験するもので、若い時には理解できないことも多かったような気がします。

祈りにも、それぞれの年齢によって違いがあるのだろうか。若い時よりも、今の自分には自由な時間（外に出ての動きを除き）は比較的にあります。此れからは、この余裕ある時間を有効に使って、お祈りや神様との語らい、又これまでよく理解出来なかった聖書の教えや言葉・文章の理解などを進め、そして出来る事から実行して行くことではないか。

前に、或る本で読んだ中に、気付いたらそこに留まらずどんな小さなことでも、良い事に向かって歩みだしなさい。それが聖徳を積む一歩ですとあつたことを思い出した。これまでは、何気なく当然として祈っていた祈りではなく、個々の祈りの内容に注視して心に刻み祈ることに変えていこう。例えば（待降節の集会祈願のなかから）

・あなたからいただく総てのものが、救いの御業の完成に役立つものとなりますように
・救いの訪れを信じ、解放の時を待ち望む私達の心を目覚めさせて下さい。
・やがて来られる救い主への希望に支えられて、罪のいざないに打ち勝つことが出来ますように
・御子キリストが来られる時、永遠の宴に共に与かり、主の御手から命の糧を受けることが出来ますように等

待降節に入って新たに気付かされた主の恵みに、新たな感動と感謝・希望と喜び・信頼に満たされています。

（沼沢　忠一）

山形県宗教者懇話会平和学習会「平和の祈り」

― カトリック山形教会で ―

2018年10月20日（土）「宇宙共生・世界平和」をテーマに東日本大震災・平成30年7月豪雨並びに各地災害犠牲者慰霊・復興祈願が当カトリック山形教会聖堂を会場として行なわれました。

この宗教者懇話会は、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけにより1986（昭和61）年イタリアのアッシジで「世界平和祈りの集い」が開かれ、招待を受けた天台座主故山田恵諦猊下が、このアッシジの宗教協力を継承するため、日本の諸宗教と共に翌年京都及び比叡山延暦寺において「比叡山宗教サミット」を開催し、宗教会議としてはこれまで最大規模で仏教、キリスト教、イスラム教、儒教等の7大宗教代表者24名、国内宗教者代表を含めて600名が一同に会しました。

これを受けて10年後、山形県宗教者懇話会が発足し、昨年20周年の記念行事が催されたことは記憶に新しいことです。

平和学習会会場は宗教者懇話会で決められますが2012（平成24）年～2016（平成28）年の5年間は東日本大震災犠牲者慰霊・復興祈願を主として羽黒山出羽三山神社で行なわれましたが、昨年は天童市の若松寺で。今年は当カトリック教会で行なわれました。山寺・立石寺の清原浄田会長を始め天童若松寺、湯殿山神社、山形・薬師寺、諏訪神社（山形県神社庁）、山形・聖ペトロ教会、立正佼成会（米沢・山形・鶴岡）と9団体、総勢145名の皆様の参加の中、清原会長の挨拶は90才を超え体は弱って来ているとおっしゃいながらも聖堂内に通る大きな声で、バチカンに行ったときにローマ教皇にお会いしたこと、特に大切に扱って頂いたことへの喜びと感謝の言葉でした。

千原神父様の講話は、宗教者懇話会の発端となる「世界平和祈りの集い」が開かれたアッシジと翌年「比叡山宗教サミット」を開催した京都との結びつき、アッシジの聖フランシスコの紹介そして現教皇フランシスコについて、すべて祈りが原点にあることを話されました。

そして各教団、宗派毎にテーマに対しての祈願が行なわれましたが、各聖職者を先頭にして信者さん達が、自分たちの祈りのやり方で、十字架のキリストに向かい祈られる姿は言うに言われぬ感動を覚えると共に、聖堂に響く鉦、木鉦、太鼓の音は普段寺社では感じられない響きを感じます。もちろん私達キリスト教は、千原神父様、聖ペトロ教会（聖公会）の涌井司祭の先唱により、神に力づけを願う「初めの言葉」に続き、賛歌「ごらんよ空の鳥」、「平和の祈り」、「主の祈り」、「復興の祈り」、「祝福の祈り」を会場の方全員で（配布パンフレット使用）お祈りすることが出来ました。

最後に教会の「鐘」が清らかに流れるなか、各教団信者さん達が黙想の内に祈願を行ない静かに終会となりました。「祈る心は皆な同じ、心は一つ」。皆さま有難うございました。

今回の行事実施については、一週間前の突然の協力お願いにも係わらず多くの皆様から協力をいただきました。感謝いたします。　（H.S）

墓地 台石、建立以来の清掃と聖母子像のお召し替え

明朝、山形県の日本海沖を台風25号が通過するという前日10月6日、土曜日、聖母子像の台石の洗浄作業が行なわれました。天候は予想に反して上々の日本晴れ、予想最高温度29度という夏に逆戻り。水仕事には絶好の天候です。

聖像ができた昭和53年5月28日以来約35年4ヶ月ぶりの初仕事です。この間、雨に打たれ、雪に埋もれ、風にさらされながらマリア様と幼子イエス様を担ってきた高さ2.3m、正面幅3mの大きな台石で、私達がたわしを持って周りに5人が立っても余りある大きな石です。石材名は「北海道産の桜石」。名の通り桜色・青色などの斑点に黒の筋が巧みに入った見事なものです。皆さんシャツ一枚の姿で洗剤・たわし等を持ち、水をかけながら“ゴシゴシ作業に入り”結構汚れ水が流れましたが、長い年月のせいか何処がきれいになったか?何処が汚れているのか?中々わかりません。全面手を入れたら乾燥させ、もう一度やろうとのことで一端休憩。少しは綺麗になったのかなアの感じ。急ごしらえの作業員で「ここは綺麗になった」「そこはまだだね」などの清掃談議などをしながら待つこと30分。再度作業を開始。全面に洗剤、水をかけ皆んなで“ゴシゴシ”合わせて祭壇周囲の切石（須賀川石）、階段の石、花台も“ゴシゴシ”ちなみに花台は飯島末光先生寄贈の「三春の鍾乳石」で作られたものでその周りに特徴が見られます。すべての石を洗浄しました。

このきっかけは、昨年、8月24、25日に行なわれた母子像の塗装の修復でした。母子像の修復については、10年前に計画し実施段階まで行きましたが、都合により今日まで延びたもので、近年のマリア様は多くの箇所が黒ずんだり、剥げ落ちたりで、墓地へ行くたびにみる御顔は本当に悲しげで心痛むものがありました。この姿を同様に感じられている方も多くおられ、この時をじっと待っておられたと思います。おかげさまで、ようやく母子像も初めの姿に戻すことが出来ましたが、関係する台石、土台など周囲も含め少しでもちきれいにしたいとの考えから沼沢忠一墓地部長から話があり11月の死者の月ミサまでの終了を目指して実施しました。

そして、清掃後、少し早い昼食でしたが、一仕事を終えた気安さの中で、普段教会では余り話すことのない家庭での問題や身近な話しをすることが出来ました。寺社から教会墓地への移転、家庭祭壇についてなど、各人が自分の場合の経験、問題、現在の状態などを具体的に出しての話合いとなりました。こう自然にザックバランに話しあえる機会はそうありません。

これは、場所が墓地だからと言うことがあるかもしれませんが、改めて、一つの仕事に向かって力を合わせての“ゴシゴシ”に神様が力を下さったように感じられます。また中桜田地区に多くの信者さんがおられた訳などを聞くうちに沼沢さんが信者になられたきっかけを聞くなど話が尽きませんでしたが、台石も乾燥し本来の美しい岩肌が見えたところで今日の仕事を終了することにしました。

帰り際に再度聖母子像と台石を見つめてみました。台石は、すっかり汚れを落としすっきりした姿、いわば“湯上がり後”の何かさっぱりした姿に。その石の上でマリア様と幼子イエス様は暖かな優しい御顔で、銅板プレートの文字「慈しみの聖母」そのものでした。

墓地は教会の大切な顔です。
墓碑のあるなしに係わらず皆様に訪問して頂き親しんで頂きたいと思います。

注:「慈しみの聖母」の銅板プレートの文字は、いつもミサに来られている戸田和助さんの筆です。

（柴田　博）

第20回 新潟教区信徒大会開催

9月29日（土）,30日（日）の両日にかけて新潟教区信徒大会が秋田県大潟村『ホテルサンルーラ大潟』において新潟教区管理者、菊地大司教を迎え開催されました。

1日目は、菊地大司教の基調講演・小グループによる分かち合い・親睦交流会。2日目は、新潟教区4ブロックの各代表による信仰体験発表・派遣ミサのスケジュールで、参加者は約200人。山形教会から参加された19名の方は、大変すばらしい大会だったとのお話でした。

宮腰かつみさんと小林みどりさんにその喜びと、発表された信仰体験の文をいただきましたので皆さんにご紹介いたします。（H・S）

教区大会（秋田）で頂いた喜び

「そうだったのか!」

これは、今、新聞、テレビの人気ニュースのタイトルですが、そのニュースを、元から分かりやすく解き明かしてくれている方は、池上彰さんです。

私達カトリック教会の信者には神父様、司教様、大司教様達が、神の国のことを教え諭して下さいます。

9月29日土曜日から9月30日日曜日まで、秋田県大潟村の“ホテルサンルーラル大潟”でカトリック新潟教区信徒大会が開催され、私達夫婦も参加し菊池大司教様の講話を聴きました。

私の主人は2015年5月に病に倒れ入退院を繰り返していました。その2015年10月に前回の教区信徒大会が山形地区の当番に当たっており寒河江市で行なわれましたが、主人の参加は無理な状態でした。でもどうしても参加したいとの希望があり、杖を支えに参加することが出来ました。次の当番は2018年に秋田地区の能代と発表された時はびっくりしました。秋田県能代市は、主人の生まれ育ったところです。私も少し能代で生活をしました。

（やった）またこれで3年頑張れる目的が出来た。夫婦で実感して大会を後にして帰りました。抗がん剤は今でも飲んでいます。

2018年がやってきました。私達も山形教会の参加者の中に入れて頂き一路秋田へ出発。途中で秋田聖体奉仕会（涙のマリア様）へお祈りに行きました。そして大潟村に到着しました。

菊地大司教様の愛の喜びの講話を聞きました。喜びも難しい言葉でいろいろ話されましたが、私にはよろこびの方が、私の心の奥に浸透するものでした。

（3年間のちの大会を待つ喜び）

（一週間の日曜日ミサにあずかる喜び）

（神に感謝を実感した喜び）。

夜の親睦交流会は各教会の余興で盛り上がった。最後はいつものとおり山形教会の花笠音頭を踊りました。会場は花笠の輪で、華やかな会場になりました。

30日のミサは台風の影響を考慮して、30分繰り上げミサを献げました。その前に4人の方の信仰生活の発表がありました。

大会参加の皆さんと、3年後新潟教区の長岡教会で逢いましょうの掛け声でお別れしてきました。

バスは山形へ出発しました。台風の影もなく無風雨状態で無事天童に着きました。

愛のよろこび　神に感謝　　（ユリアナ　宮腰かつみ）

第20回 新潟教区信徒大会 信仰体験発表

テレジア　小林みどり

今日、お集まりの皆様の中にも大勢いらっしゃると思いますが、私は幼児洗礼です。両親がカトリック信者なので、兄と姉も幼児洗礼でした。家族揃ってカトリック信者ということになります。ですから、物心ついた時から教会に通っていた、と言いたいところですが、それとは反対で、私は幼少期に家族揃って教会に通った記憶がありません。父は、山形県の新庄市出身ですが、国鉄に就職してから新潟の高田市で鉄道学校の寄宿舎に数年過ごし、そこで寄宿舎仲間と一緒にカトリック教会に行き洗礼を受け、カトリック信者になりました。母は、青森県十和田市で生まれ育ち、高校生の頃に仲良しの友達に誘われカトリック教会に行き、洗礼を受けカトリック信者になりました。父は、鉄道学校の勉強が終了し新庄に戻りますが、その後、その当時新庄市内にあった新庄のカトリック教会に通います。青森出身の母は、新庄に住んでいた親戚のおばさんが病気になり看病をするために新庄に行き,その時、新庄教会を訪ね、父と母は知り合い、結婚したと聞いています。父は転勤族でしたので、私が3歳の頃、秋田県の東能代という所に異動になりました。父は泊まりや出張もある大変忙しい仕事で、母は住み慣れない知らない土地で幼い子供達を連れて教会に行くことは大変だったのかもしれません。今のように自家用車がある時代ではなく、バスや汽車での移動が主流でしたから。東能代でも教会に通った記憶がありません。

次は,私が小学1年生の時に秋田市内に転勤になります。父の仕事は益々多忙を極めます。その頃、「我が家はカトリック」という認識がありましたが、やはり教会に通う機会はありませんでした。

そして、私が小学5年生の時、山形市内に転勤になり同時に教会に通い始めることになります。住まいが山形駅のすぐそばで、山形教会も駅の近くにあったので、とても恵まれた環境で子供の足でも10分～15分で通える距離でした。初めは兄弟3人で教会に通った記憶があります。兄弟で初聖体の勉強をして降誕祭の時に御聖体をいただきました。山形教会に来て、初めてサマースクールにも参加しました。しばらくは、兄弟で教会にも通っていましたが、兄と姉は高校、大学、就職と年を重ねると共に教会から遠ざかってしまいました。それでも、私はなぜか教会に一人で通い続けました。『信者は、毎週日曜日に教会に行くのが当たり前』と思っていたからかもしれません。そして、そこには学校にも近所にもいない同じ宗教の繋がりを持った同い年の仲間がいたからかもしれません。高校生の時に参加した錬成会では、とても衝撃を覚えました。兄弟が大勢おり、熱心なカトリック信者さんの一家がいたからです。憧れの存在になった感覚を覚えています。

そして今度は、青年会との出会いがありました。30数年前、山形教会は青年が大勢いてとても活気のあふれているところでした。今日もその当時、青年会で活躍していた仲間が（私よりも年上ですが）参加しています。そこで、今の主人である小林青年と出会い、カトリック信者同士の結婚をすることが出来ました。小林青年のご両親も熱心なカトリック信者さんで毎週日曜日は必ず教会に来られる方でした。

結婚後は、3人の子供にも恵まれ,子供達は当たり前のように幼児洗礼を受けました。

そして、家族揃って毎週日曜日に教会に通いました。いつも、どこかで「家族みんなで教会に行きたい」という気持ちがあったのは、私の幼少期の「できなかったこと」の裏付けなのかもしれません。子供たちは、日曜学校やサマースクールにも参加し、幼い頃から神父様のお話を聞き神様からのお恵みをいただくことが出来ました。私はとても幸せでした。

けれども、中学、高校、大学、就職と成長するにつれ子供たちは教会から足が遠のいていきました。せめてもの救いは、御復活祭とクリスマスの御ミサに参列したことでした。

そして,私も不規則な施設勤務と子供たちの部活動の応援隊として教会に行く時間が少しずつ少しずつ少なくなっていきました。けれども、子供たちが成長し、部活動などの学校行事もなくなると、また少しずつ少しずつ教会に行けるようになりました。

更に子供が成長し、長男が結婚することになりました。結婚式はカトリック教会で挙式を挙げて欲しいという親の願望に応えてくれて、長男カップルは、私たち夫婦が式を挙げた山形のカトリック教会で結婚式をしてくれました。これは、私にとっては、とても大きなお恵みでした。小林家一家が教会に全員揃ったのですから。

しかし、家族揃って教会に通う道のりはとても険しく、現在、私は一人で教会に通っています。職場では、月に2回の希望休が取れますが毎週日曜日がお休みな訳ではありません。そのような中で教会に通える幸せがあります。できる限り日曜日の御ミサに集うと不思議なことが次々と起こります。教会で日曜日以外の行事がある時、例えば千原神父様の聖書講座、四旬節に毎週金曜日に行なわれる十字架の道行きなど、仕事が偶然お休みだったりすると、神様に導かれている、神様に呼ばれている、神様が準備して下さったと思えます。

私が幼少期の頃の教会の記憶はありませんが、私に幼児洗礼を授けてくれた両親に心から感謝しています。教会に行くきっかけを与えてくれたことに感謝しています。両親がいなかったら,今の私は存在していなかったと思います。

私は,両親が、そして家族が、いつかまた、神様の大きな愛に気付いて教会の御ミサに預かることが出来るようにお祈りし続けたいと思います。

敬老のお祝い
オカリナ演奏と家庭料理で祝福

8月28日から1ヶ月間、イエズス・マリアの聖心会総会に出席のために、千原神父様が山形を留守にされており、一週おきに他の教会の神父様が来られてミサを行なって下さっています。その中で敬老の日の直近の日曜日は16日でしたが集会祭儀。敬老のお祝いは次の日曜23日となりました。

23日、ミサに来て下さった神父様はワルヨ神父様でした。ワルヨ神父さまは、インドネシア出身。日本で初めての赴任地が山形教会。まだ日本語も話せなく電子辞書を持参して猛勉強の中でしたが、持ち前の率直さ、素直さ、ていねいさ、明るさで、信者さんには好感度抜群の神父様でした。今日もそうでした。福音についての順を追った説教、「老齢でも変わりなくミサへ参加して下さいネ」との励ましの言葉、そしてミサ閉祭のまえに一言、「山形は第2の古里」と、考えてもみなかったオカリナを取り出し「ふるさと」を演奏して下さいました。大拍手です!

ミサの中での敬老のお祝いは、80才以上の方が対象で名簿では55名。本日は、13名の方が出席され、ワルヨ神父様よりお祈りと塗油による祝福。教会からお祝いとしてカトリックカレンダーが皆様に贈られました。どうぞ皆様これからも元気で、いつまでも御ミサに来られ後輩の信者をご指導頂きたいと思います。

ミサ後、信者会館で敬老のお祝い会が行なわれました。出席された方は総勢約50名。

典礼部を始め皆様方のご協力で準備されたご馳走が沢山並べられました。赤飯、トン汁、ポテトサラダ、煮物、こんにゃく、漬物、サンドイッチ、チーズ、ミニトマト、そしてプリン、お菓子類等と普段一般家庭に見られる親しみのある料理。一品一品を大変おいしく頂きながら各テーブルでの談笑、テーブル越しの談笑で花が咲きました。

またワルヨ神父様は、聖堂での素晴しいオカリナ演奏に再度の要望を受けて、「浜辺の歌」をゆっくり情感こめて演奏して下さいました。（ワルヨ神父様にはオカリナが似合いますネ）

神父様が新庄に行かれる時間を機に、お祝い会を終了しました。皆さん有難うございました。また準備から後片付けまで、担当された方には朝早くから終了後まで大変ご苦労様でした。（H.S）

広報部からお詫び

いつも教会紙「かすみ」をご覧頂きまして有難うございます。つきましては、昨年9月16日に発行しました「かすみ」の記事に、誤字、脱字等が多数あり、皆様そして投稿下さった方々にご不快をおかけしたことをお詫びいたします。今後は教会紙として、また皆様よりの大事な記事であることをあらためて認識し、添削等校正作業を行ない、間違いのない「かすみ」を発行していきたいと思います。

（広報部長 柴田 博）